

## 近況報告 娘が産まれました

第2期OB 梶山 啓介

小野晃典研究会の皆さまこんにちは、2期生の梶山です。今年もこのような執筆の機会を頂きありがとうございます。また課題活動で忙しいにも関わらず、自由奔放なOB・OGの取りまとめ、OB・OG会当日の準備と行ってくれた現役生の皆さま、ありがとうございます。

毎年この機会を自分自身の1年の振り返りの場とさせてもらい、会社のことを中心に書かせて頂いたのですが、今回は娘が産まれたこともあり、自分自身のプライベートに関して報告させてもらいます。

2012年2月23日お昼過ぎ、3,502グラムの元気な女の子が産まれました。里帰り出産で場所が兵庫だったのでタイミングが合わなければ立ち会えなかったのですが、陣痛が始まり、産まれるまで19時間におよんだため、無事立ち会うことが出来ました。しかし出産というのはすごいですね。何時間もぶっ続けで気が遠くなる状態の妻の横に立ちながら、「が、がんばれえ」としか言えない自分を見て、これが女性の強さか…改めて感心していました（感心している場合ではなかったですけど）。

何はともあれ無事に産まれてきた娘に対して、強くも女性らしく生きてほしいという意味で「葵（あおい）」と命名しました。それから、産まれてから30日後の「お宮参り」、100日後の「お食い初め」が過ぎ、首がすわり、ハイハイするようになり、今では歩けるようになりました。こんな調子であつという間にお嫁にいつてしまうのかあと妻にあきれながらも既に親バカっぷりを発揮しています。

そして、自分では親バカになっている自覚すらないため、「子どもが出来て私の1番変わった所はどこか？」という質問を妻にしてみました。そうすると妻からは即答で「早く帰ってくるようになった」という答えが返ってきました。前までは仕事とか飲み会とかでほとんど家に帰ってこなかったけど、娘が出来てからは仕事があっても早く切り上げてくるし、飲み会の回数もかなり減った、と。確かに、産まれるまではお互い共働きだったから外食が多かったということを差し引いても今は早く家に帰りたいという気持ちになり、帰ってきています。

仕事柄ベンチャー社長とかの飲み会に参加すると、ベンチャーっていうのは家庭が出来てもバリバリ仕事をするべきだという社長がいます。おっしやる通りです。子どもが出来たからと言って牙を抜かれたよ



大学生時代の著者

うに仕事に対する意欲をなくしては意味がありません。ただ、どれだけ自分の会社が大きくなったとしても、娘が小さい時に一緒に過ごした記憶がないというのは悲しい話です。会社を大きくしたいし、色々な経験もしていきたい。ただそれと同じぐらい日々成長していく娘との時間を逃したくないって思う気持ちが自分を早く帰らせているのだと思います。今までそんなこと考えもしなかったですが、娘が1人産まれるとここまで自分の考え方が変わるので家族というのはすごいです。

こんな変化は私だけではなく、前までは夜中までテキーラを片手にダーツを投げていた2期生も、今ではすっかり大人になり（歳をとり！？）子どもを含めた家族ぐるみで集まったりしています。それぞれ大人になっていきながらも、形を変えて小野ゼミの同期として集まっていけることを幸せに思います。また50歳ぐらいになったらテキーラとダーツに戻っている気がしますけどね 笑。



同期から出産祝いにもらった服を着た御息女（10ヵ月）